

この人に 会いました

農事組合法人「滝の又農産」
代表理事

腰越 登志男 さん
(滝の又)

4月1日、滝の又地区に発足した、集落ぐるみで参加する農事組合法人「滝の又農産」代表理事、腰越登志男さんにお話を伺いました。



農業生産法人設立の きっかけは

昭和45年に、滝の又の農家全員が参加する滝の又生産組合が設立され、今年で40年目を迎えます。

今まで、国、県等の補助事業を活用し、ライセンスターの建設、大型農業機械の導入を図り機械共同利用型の集落営農組織として、滝の又集落が一丸となって

支え、発展させてきました。が、近年組合員の高齢化が進み、農地の耕作が滝の又地域以外の人に移ることが心配されはじめてきました。滝の又の農地を滝の又から流失させず、滝の又で耕作するシステムをつくり、新しい農業生産の仕組みを作り上げるために、滝の又の農家が全員参加する農事組合法人を立ち上げました。

法人設立における経緯を お聞かせください

滝の又地域を支えてきた生産組合の組合員が全員参加する法人化を前提に5年前から検討を続けてきました。

一昨年実施した意向調査では、一旦見送りを決定し

ましたが、昨年の5月から11回の役員会を開催し、生産組合の抱えている問題、滝の又の将来に向けた農業を基盤とした地域の持続的発展策等の検討を重ね、再度法人化を提案し、昨年11月7日の滝の又生産組合臨時総会において、全員賛成で法人化を決定しました。

その後、法人への農地提供等の農事組合法人設立の条件をクリアしましたので、3回の法人設立発起人会を経て、名称も組合員の意向を踏まえ、「農事組合法人滝の又農産」としました。

結果的に、組合員がそのまま農業生産法人の構成員となり、滝の又の地域コミュニティを守ることで安心していきます。

体験工房大源太を指定管理者として運営受託をするよ うですが、今後の展開についてお聞かせください

体験工房大源太の「そば打ち体験」のそば粉は、今まで滝の又生産組合で供給してきた経験から、体験工房の材料は地域で生産した安心安全な農産物や地域の山菜等を使用し、地域に伝

わる農村文化の伝承と地域の経験者のノウハウの提供を通じて、都市住民やマンションオーナー等と地域住民の交流拠点として、観光湯沢の新しい魅力付けに挑戦したいと思っています。

農事組合法人滝の又農産は生まれたばかりで、よちよち歩きを始めたばかりですが、休耕田を活用して山菜をはじめとする新規作物の積極的な導入と地産地消による農産物のブランド化という大きな夢に向かい、地域一丸となって頑張りたいと思いますので、皆様の特段のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

★インタビューを終えて

現在、農業経営を取り巻く情勢は大変厳しいようですが、代表理事腰越さんの「地域の農地を守るために新しい営農システムに挑戦し、地域発展に貢献したい」という考えが印象的であり、地域を上げての新しい挑戦により、地域の将来展望が開けることを期待したいと思います。

広報常任委員会 南雲和夫
南雲 正

編集
後記

絆

「きずな」

冬季湯沢国体も新潟県の総合優勝で盛り上がり、大会運営、受け入れ共に好評、湯沢力の発揮は、地域にかなりの経済効果を生み出しながら、新潟大観光交流年の幕開けは湯沢から始まりました。

高速道路ETC割引も始まり、今年秋に予定されるJR6社による新潟DCキャンベーンと、低迷する観光から脱却するチャンスがやってきました。

人気テレビ番組「サザエさん」のオープニングで県内の観光地が今月から半年間紹介されます。NHKの大河ドラマ「天地人」に続き、日曜夜の人気テレビ番組にそろって取り上げられ、県外からの集客に更に弾みがつくことも予想されます。

この千載一遇のチャンスを活かして、町民の皆様一人一人が出来ることから始め、お客様に明るく、さりげなく声をかけ、お客様との絆を築き、近い大自然、湯沢人の熱い人情と優しさを提供し、大観光交流年の風を湯沢に呼び込もうではありませんか。

広報委員 師田 保

編集

湯沢町議会
広報常任委員会